

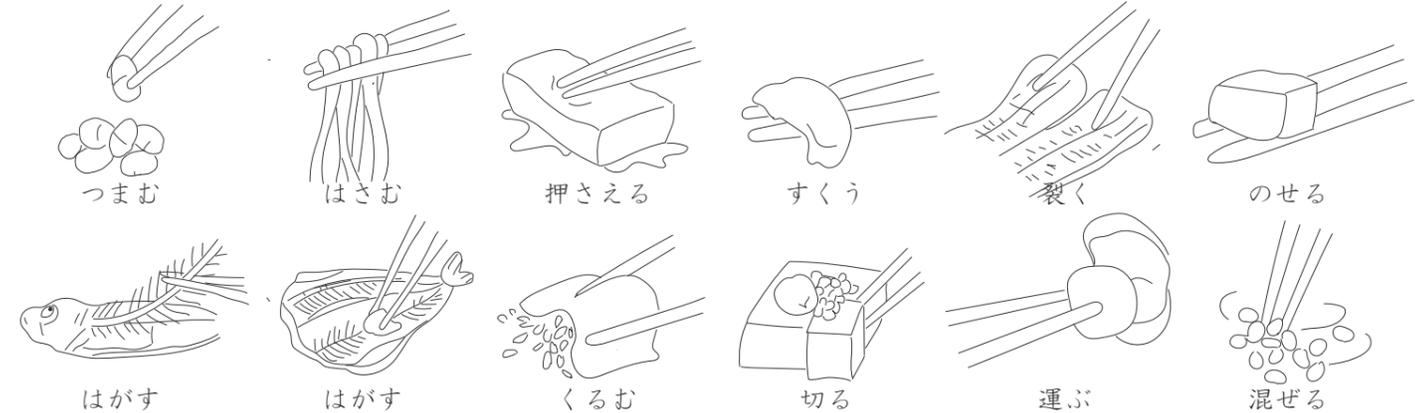


## 一膳のわ

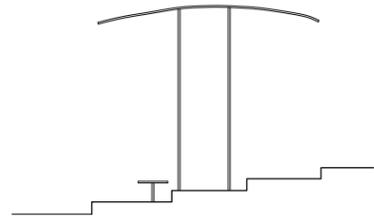


箸を頭の中でイメージすると、そこには二本一組の「一膳」の箸が想起されるだろう。また、箸はナイフやフォーク、スプーンのように単一の機能しか持たない道具とは異なり、二本の関係性から複数の機能を果たす。そんな二つで一つでありながら二つの関係性から生まれるような空間をつくれなかと考えた。敷地は都心部に位置する公園であり、中央にはステージとして使用される奏楽堂が建つ。二つのわは、上下左右へと変化を繰り返し椅子・机・スロープ・屋根・テラスと人のスケールと建築のスケールを横断しながらかかわりあい多様な居場所をつくる。

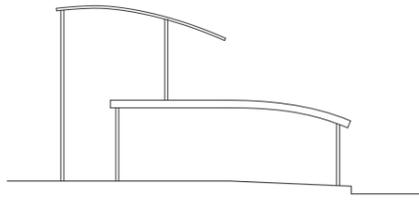
### 箸の12の機能



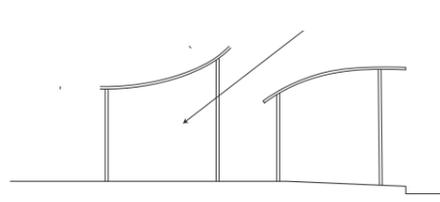
関係性から生まれるそれぞれの居場所



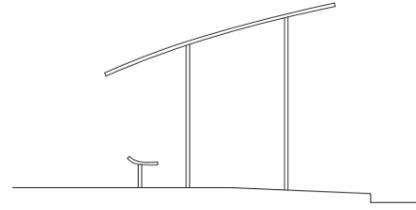
①屋根と机  
二つの「わ」の幅と高さの変化により居場所をつくる。



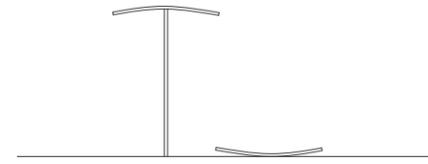
②屋根とテラス  
二つの「わ」の厚みと幅の変化により居場所をつくる。



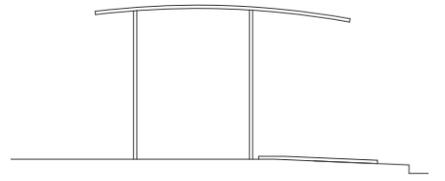
③屋根と屋根  
二つの「わ」は互いに離れながらも光を迎え入れる。



④屋根と椅子  
二つの「わ」は建築のスケールから家具のスケールを横断する。



⑤屋根と床  
二つの「わ」は共に細くこの建築へのアプローチをつくりだす。



⑥屋根と床  
二つの「わ」は互いに拡張し近づき居場所をつくる。

それぞれの居場所から全体をつくる

走り回る子供、それを屋根の下から見守る親、机で本を読む人、屋根の上で寝ころび休む人段差でくつろぐカップルのそれぞれに伊庭世がありながら居場所同士はゆるやかに繋がっていく。

